

九州地方 関門支部
上組沿岸 三浦晃嗣

第 54 期中央労働講座について

2023 年 5 月 18 日～20 日、豊橋シーパレスにて第 54 期中央労働講座に参加してきました。全国の地方から若手執行委員 27 名、中央本部から 6 名、総勢 33 名で行われました。

1 日目、松永書記長による講演者紹介、鈴木誠一委員長の挨拶から始まりました。最初のテーマ、人材不足での離職対策におけるメンタルヘルス問題では鈴木龍一副委員長の講義のもと、4 班に分かれてグループ討論し、発表という流れでした。このメンタルヘルス問題というのは、自分たちの身近で起こる問題であり労働基準法や労働安全衛生法、労働契約法、ストレスチェック、カウンセリングなどといった法律だけではカバーできないのが実態でした。そこで我々全港湾という労働組合はどうすればいいのか。やはり一人一人の話や相談を聞ける環境。組合員の為、企業を動かすのは労働組合なんだ。賃金、労働条件の引き上げも重要ですが、組合員の精神的支えになる組織、運動も大事なのだと強く思いました。

2 日目のテーマ、全国港湾の成り立ちを鈴木誠一委員長、港湾運送事業法と港湾労働法の成り立ちとその背景を畠山副委員長による講義でした。全港湾でみるとスタートは 1946 年 7 月に全日本港湾労働組合同盟という名前でスタートしたこと、アメリカの方から日本は労働組合をつくるべきだ、といった経緯など様々な歴史を学ぶことができました。港湾運送事業法と 6 大港に適用される港湾労働法は難しい話もありましたが、今働いている職場で起こっている問題に関わることから少しずつ勉強していきたいと思いました。

3 日目のテーマ宅間港運から学んだ団結の必要性を橋崎副委員長による講義がありました。こういった闘争にならないことが 1 番ですが、本当に全港湾という組織、中央、地方、支部、分会の団結、共有の大切さをものすごく感じました。

この 3 日間を通して全国の若手執行委員とたくさんの意見交換ができたこと、横の繋がりをもてたこと。本当に実のある 3 日間でした。ここで学んだことをまずは自分の分会から、そして支部へ、一人一人の組合員を守る為に生かしていきたいと思えます。

関門代表として参加させていただきありがとうございました。